NIE実践報告

1．タイトル 紙上ディベートによる意見文の指導

2．学校名

福井県立ろう学校

3．実践者名（代表者名）

福田　美喜子

4．学年

中学部2年（4人）・3年（1人）

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　5人

6．単元（本時の学習課題）名

「高速水着に賛成か?反対か?」

7．目標(狙い)

社会的に問題になっている事柄について、新聞記事を基に、賛成か反対の立場に立って、根拠を挙げながら筋道立てて意見を書く力をつける。

8．評価の視点

立場を考慮して適切な根拠を挙げることができたか。自論を筋道立てて文章化することができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「オリンピック水泳競技の高速水着問題とは？！」（自立活動：1時間）
「高速水着に賛成か?反対か?」（自立活動：1時間）　合計2時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①高速水着についての騒動を取り上げた新聞記事の内容を読み取り、意見交換する。（1時間）
②「高速水着を着てオリンピック参加することに賛成か?反対か?」というテーマで意見文を書く(1時間)
③廊下の掲示板に、それぞれの立場の意見文を紹介する。

(留意点)
・新聞記事の言葉が難しい場合、辞書で調べさせたり理解できる言葉に置き換えたりして補足説明する。
・賛成か反対か、立場をはっきりさせて、意見を言わせる。
・根拠や理由をできるだけたくさん述べるよう促す。(意見を板書して、視覚的に残しておく。)
・意見を文章化するのが難しい生徒に対しては、再度話しことばで言わせ、文法の誤りを正しながら板書し、それを視写させる。
・できあがった意見文を、新聞記事と共に掲示し、他の人の意見を読む機会を作る。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

実際にテレビなどでも、賛成・反対の意見を聞く機会の多かったテーマでもあったため、関心も高く、さまざまな立場や角度で考えようとする姿勢が見られた。休み時間に賛成・反対それぞれの立場の意見文を読み、互いの意見について考えを言い合う姿が見られた。

12．成果と課題

ディベートは立場をはっきりさせるため、意見文を書きやすいというメリットがある。作文に苦手意識を持っている生徒も意欲的に取り組むことができた。
しかし、興味のある記事に対しては、大変意欲的に取り組むことができるが、政治的・経済的な問題などのとっつきにくい記事を提案すると、途端に意欲が減退してしまう。また、新聞には日常生活では使用しない難しい言葉や専門用語が並ぶので、語彙の少ない生徒にとっては、「新聞記事の一人読み」が困難で、教員の補足説明が欠かせない点が課題である。